

環境経営レポート

I. 環境経営方針	P－2
II. 組織の概要	P－3
III. E A 2 1 推進体制	P－4
IV. 環境経営目標と実績(環境負荷実績と環目標比較)	P－5
V. 環境活動の取組と評価・次年度の取組内容	P－6・7
VI. 環境関連法規の遵守	P－8
VII. 環境関連法規の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P－9
VIII. 代表者による全体評価と見直しの結果	P－9

対象期間 2023年5月～2024年4月

作成日 2024年7月5日

株式会社フジ電科 群馬工場

I.環境経営方針

《基本理念》

株式会社フジ電科は、地球環境保全の重要性を認識し、企業活動を通じて、自然環境の恩恵と享受の継承を行い、持続的社会発展の実現に貢献する。

《基本方針》

株式会社フジ電科は、電子機器の重要部品であるハーメチックシールの製造、及び販売を行っていることを踏まえて、全ての活動における環境への影響に対応して、以下の方針に基づき環境保全及び環境負荷軽減活動を推進する。

- 1) ライフサイクルを考慮した環境保全活動
地球規模の環境を視野に入れ、全ての活動、製品及びサービスで、環境に配慮した技術開発、省エネルギー、省資源、廃棄物の適正管理、化学物質管理など、ライフサイクルのすべてを考慮して、環境負荷軽減活動を行う。
- 2) 環境関連法規の遵守
環境関連法規や、当社が同意するその他の要求事項を遵守し、必要に応じて自主管理基準を設定して、環境保全の改善に取り組む。
- 3) 環境目的・環境経営目標の明確化
環境目的、環境経営目標を定め、実施計画を策定し、必要により見直しを図り、環境管理を推進する。
- 4) 環境教育の徹底
この環境経営方針を文書化し、当社で働く又は当社の為に働くすべての人に対して周知徹底を行い、環境に関する意識向上を図る。
- 5) 環境マネジメントシステムの継続的改善と汚染の予防
環境マネジメントシステムを構築・運用し、継続的な改善及び汚染の予防を図ることで環境負荷低減を目指す。
- 6) 環境経営方針の公表
この環境経営方針は、要求に応じて社外に公表する。

制定：2007年 4月 7日

改訂：2019年 7月 22日

株式会社フジ電科 群馬工場

代表取締役 安藤 衣素子

工場長 川上 祐一

Ⅱ. 組織の概要

1. 事業所名

- ・株式会社フジ電科 (ISO14001 認証取得)
- ・株式会社フジ電科 福島工場 (ISO14001 認証取得)
- ・株式会社フジ電科 群馬工場 (エコアクション21 認証取得)

2. 所在地・連絡先

- ・株式会社フジ電科
〒210-0004
神奈川県川崎市幸区小向西町4丁目20番地
TEL 044-522-6591
FAX 044-522-6596
- ・株式会社フジ電科 福島工場
〒962-0043
福島県須賀川市岩瀬字明神前184番地2
TEL 0248-62-3165
FAX 0248-62-3169
- ・株式会社フジ電科 群馬工場
〒375-0042
群馬県藤岡市鮎川757番地
TEL 0274-24-2077
FAX 0274-24-2486

3. エコアクション21環境保全関係の責任者及び担当者

最 高 責 任 者：	代表取締役	安 藤 衣 素 子
工 場 責 任 者：	工場長	川 上 祐 一
環 境 責 任 者：	テクニカルセンター長	関 口 篤 司
E A 2 1 推 進 委 員：	表面処理	橘 秀 太 朗
	製造	新 井 秀 和
	技術	橋 爪 拓 人
	製造	高 橋 奈 美
	業務	山 里 仁 菜

4. 事業の内容

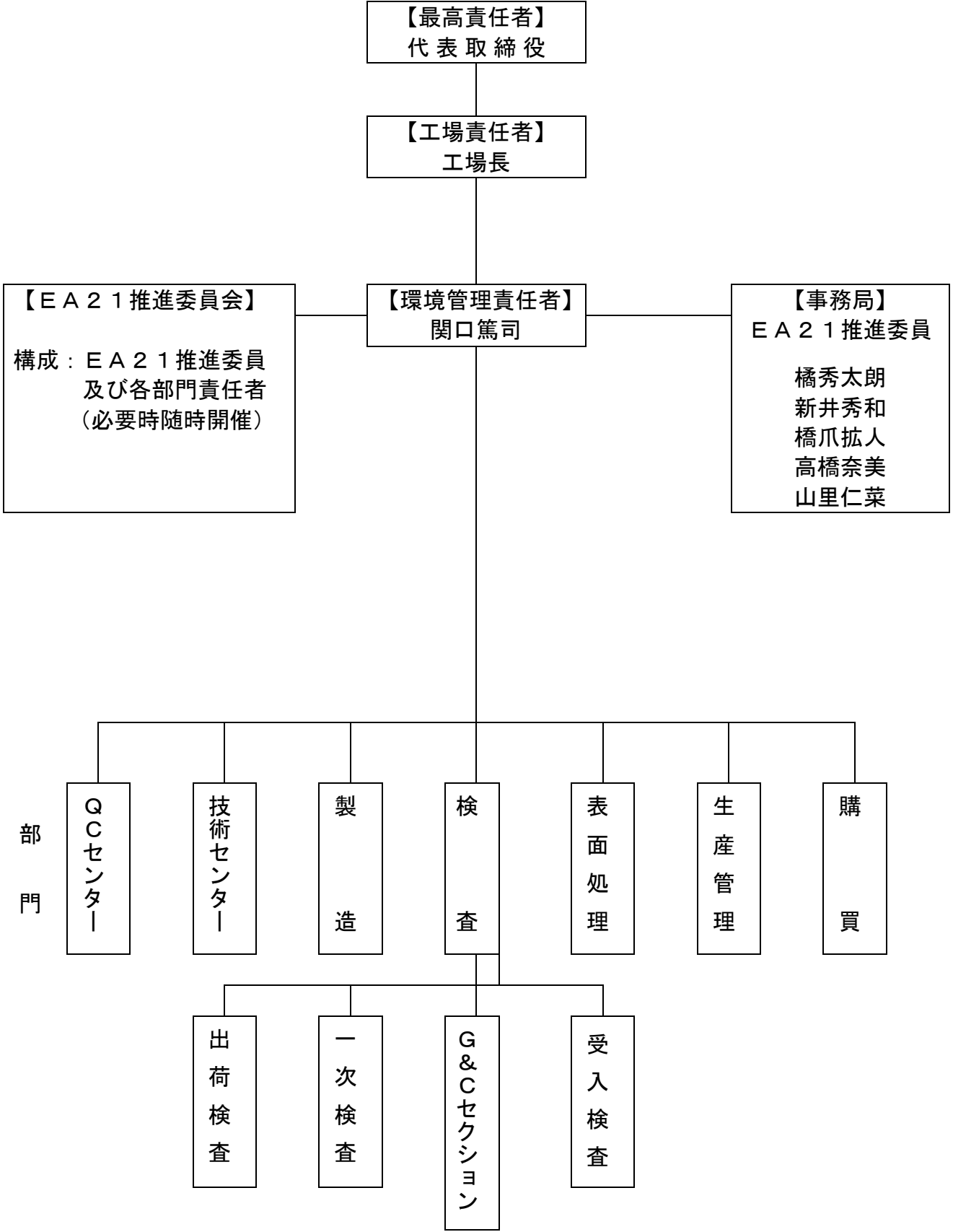
気密封着端子（ハーメチックシール）の開発及び製造

5. 事業の規模

事業の規模	単位	2021年度 4月期	2022年度 4月期	2023年度 4月期
従業員数	人	28	30	31
床面積	m ²	1,841	1,841	1,841

Ⅲ. E A 2 1 推進体制

当社のE A 2 1（エコアクション21）を運用・継続する為の組織を下記の通り定める
作成日：2024年5月2日



Ⅳ. 環境経営目標と実績（環境負荷実績と環境目標比較）

1. 主要な環境経営目標と環境負荷実績

（１）数値目標設定項目

環境経営目標項目		単位	前年度	今年度		次年度	3年後の目標
			実績	対前年度の削減目標値	実績	対今年度の削減目標値	対今年度の削減目標値
二酸化炭素排出量の削減		売上高原単位 kg／百万円	569.3	2%	13.2% (644.3)	2%	3%
廃棄物の削減		売上高原単位 ℓ／百万円	471.4	2%	16.6% (549.5)	2%	3%
水資源投入量の削減		売上高原単位 ℓ／百万円	2.3	3%	28.1% (2.9)	1%	2%
化学物質（PRTR 法）の削減		売上高原単位 kg／百万円	9.6	2%	2.3% (9.8)	2%	3%
本業に関する目標	液体窒素使用量削減	売上高原単位 m ³ ／百万円	262	2%	14.9% (301)	2%	2%
	水素ガス使用量削減	売上高原単位 m ³ ／百万円	11.51	2%	16.4% (13.40)	2%	2%

※1. 購入電力の調整後排出係数は、東京電力エナジーパートナー（株）0.441kg-CO₂/kWh を使用しています。R1 年度実績 R3. 1、7 環境省・経産省公表

※2. 基準値・実績については、原単位の値を指標化しております。

2. 環境活動の推進・定着及び周知

上記目標の他に、環境負荷への取組の推進・定着及び周知を図る為に、環境経営方針・環境目的・個人の環境負荷の軽減を図る為の行動（私のできる事）を記入した環境経営方針カードを作成し、従業員全員に携帯させています。

また、自分の行動（私の出来る事）に対して、自己評価並びに部門責任者による評価を継続して実施し、活動の定着化を図っています。

3. 主な環境負荷実績（総量）

環境への負荷	2021 年度合計	2022 年度合計	2023 年度合計
① 二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	3 6 5, 8 7 5	3 8 5, 8 7 1	3 7 8, 4 7 6
② 廃棄物排出量 (kg)	3 1 9, 5 0 0	3 1 9, 5 2 8	3 2 2, 7 9 9
③ 水資源投入量 (m ³)	1, 4 6 2	1, 5 4 9	1, 7 2 0

V. 環境活動の取組と評価・次年度の取組内容

取組計画	評価
二酸化炭素排出量の削減 前年度に対して2%削減 『目標達成手段』 ・ 不要な電気は消す（席を離れる時など） ・ 使用していない設備の電源を抜く（待機電力の削減） ・ 電気炉使用の標準化	【評価 ×】 原単位で13.2%の増加 電力総使用量だけで見ると削減できているが、売上高に対する原単位での比較では目標は未達成。ガソリンは福島での研修が増えたこと、LPGは福島からのガラス製作依頼が増えたことで、総使用量が増加した。売上が落ちたが、使用量が例年通りなので、原単位では13.2%増加してしまった。 【次年度の取組み】 電力使用量の削減に向けて、デマンドコントロールとエアコンの集中コントロールを連動させ、ピーク時のエアコン強制停止を継続し、少人数の作業場を集約し、使用するエアコンや照明を減らしていく。
廃棄物の削減 前年度に対して2%削減 『目標達成手段』 ・ コピーを減らす（歩留りを向上させるなど製造ロットの工程途中での分割を減らす、図面の再使用・両面コピーの実施） ・ 梱包用資材の削減及び再利用	【評価 ×】 原単位で16.6%の増加 一般廃棄物は削減できたが、産業廃棄物が19.7%、特別管理産廃が1.0%増加した。産業廃棄物が増加した理由として、前年度は廃プラ・金属くずを廃棄したため増加した。（前々年度は廃棄しなかった）今後もこの項目について監視をしていく。 【次年度の取組み】 めっきでの薬品の使用量については、作業の効率化を上げ、出来るだけまとめて作業出来るような生産の計画を立てるように取り組んでいく。
水使用量の削減 前年度に対して1%削減。 『目的達成手段』 ・ 全従業員が目標を設定し「自分が出ること」として実施する。	【評価 ×】 原単位で28.1%の増加 総排出が11.0%増加したが、これは今年度にケミライト処理をする製品が増えたことが要因と考えられる。 【次年度の取組み】 引き続き節水に取り組み目標達成を目指していく。
化学物質（PRTR法）の削減 （ジクロロメタン・ふっ化水素及びその水溶性塩） 前年度に対して2%削減 『目的達成手段』 各物質共に標準使用量に従い、無駄のない適正管理を行う。	【評価 ×】 原単位で2.3%増加 塩化メチレンは総排出で増加してしまったが、CPE-1000は総排出で削減する事ができた。使用する製品の受注の増減がそのまま影響していると考えられる。 【次年度の取組み】 次年度も目標を達成できるよう監視を続けていく。
本業に関する目標 ① 液体窒素使用量の削減（対前2%削減） 『目的達成手段』 電気炉の使用時間を調整し、無駄をなくす。 ② 水素ガス使用量の削減（対前年2%削減） 『目的達成手段』 水素炉の使用時間を調整し、無駄をなくす。	【評価 ×】 総排出量14.9%の増加 ステンレス製品が増えたことで、電気炉の稼働時間が増えたことが要因と考えられる。 【次年度の取組み】 前後の工程との予定を調整し、無駄なガスの使用を少しでも減らせるようにする。 【評価 ×】 総排出量16.4%の増加 BK-1077等のアルミ製品の受注が増えたことが要因と考えられる。 【次年度の取組み】 前後の工程との予定を調整し、無駄なガスの使用を少しでも減らせるようにする。

VI. 環境関連法規の遵守

No.	法律・条例その他の名称	該当施設適用項目	遵守状況
1	公害防止組織整備法	・電気めっき施設 ・ジクロロメタンによる洗浄施設	遵守
2	水質汚濁防止法	・電気めっき施設 ・ジクロロメタンによる洗浄施設	遵守
3	浄化槽法	浄化槽(事務棟、工場棟)	遵守
4	P R T R 法	・ジクロロメタン ・ふっ化水素及びその水溶性塩	遵守
5	毒物及び劇物取締法	—	遵守
6	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・酸・アルカリ廃水槽 ・シアン廃水槽	遵守
7	群馬県の生活環境を保全する条例	・めっきスクラバー ・騒音特定施設 ・振動特定施設	遵守
8	土壤汚染対策防止法	・電気めっき施設 ・ジクロロメタンによる洗浄施設	遵守
9	フロン排出抑制法	・業務用エアコン ・チラー	遵守

VII. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価 の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 全項「環境関連法規の遵守状況」により、遵守状況の確認及び評価を実施し問題ありませんでした。
2. 関係機関（官庁・取引先）からの指摘
今年度については、関係機関からの指摘はありませんでした。
3. 近隣から環境に対する苦情
近隣の地域住民の方々から、弊社への環境問題（騒音・振動・悪臭）への苦情は有りませんでした。毎年1回（ばい煙は年2回）は環境測定を実施し、基準値以下であることも確認しています。
又、近隣の地域住民からの訴訟も有りませんでした。

VIII. 代表者による全体評価と見直しの結果

2023年度は、原単位で全ての項目で増加してしまった。これは、前年度に対して売上が減少したことが大きな要因であると言える。前年度と同様、原単位は売上100万円に対しての実績となっているが、売り上げが減少したため、多少の使用量の減少はあったが原単位での削減にはならなかった。売上の増減が全体の目標達成に大きな影響を及ぼしているが、総使用量が前年より増加していることには目を背けることはできない。効率の良い作業、製品の作り直しによる再生を減少させる事は最低限やるべきことであり、改善の余地はまだまだあると言える。

今後も改善活動を継続していき、全従業員が「無駄を無くす・節約をする」という意識を持ち、実施して欲しい。

小さな事でも、全従業員の活動になれば、業績に大きく影響します。故にこれからも、全従業員が協力し、エコアクション21の活動の意義についての理解を深め、環境方針に基づき、環境への改善活動を推進して欲しい。